

令和6年度第3回和歌山県医療対策協議会 議事録

【日時】 令和7年3月28日（金）16:00～17:35

【場所】 和歌山県民文化会館 5階 大会議室

【次第】

1. 開会

2. 挨拶（和歌山県福祉保健部 雑賀技監より挨拶）

3. 議題（※下記（1）～（6）のとおり進行）

- （1）令和8年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員（案）について
- （2）令和7年度の医師派遣について（報告）
- （3）医学部臨時定員の状況及び令和8年度の国の方針について（報告）
- （4）専門研修に係る令和7年度の採用状況及びシーリングの見直しについて（報告）
- （5）医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージ及び先行的な医師偏在是正プランについて（報告）
- （6）その他

4. 閉会

【議事】

[議題（１）令和８年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員（案）について]

（事務局 医務課 濱崎主事）

令和８年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員（案）について説明（【資料１】関係）。

（平石会長）

事務局より、令和８年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員（案）について説明があった。

ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いします。

（山下委員）

先ほど来年度、再来年度でさらに定員が減らされるかもしれないと説明があったが、減らされるのは２ページの③「地理的条件等の加算」の（d）「都道府県間の医師偏在状況」の理由で減らされる可能性があるということか。それとも他の理由か。

（事務局 医務課 濱崎主事）

①「基本となる数」のところで減らされる可能性があると考えている。人口が計算に使われており、和歌山県は人口が減り続けているため。

（山下委員）

例えば専門医制度だとシーリングがかかっている。医師の少ない東北などに配慮する形になっているが、そういうところは人口の減り方が激しい。臨床研修定員の計算では、一番減らされやすい理由が人口分布だとすると、人口が少ない地域が優遇されるということではないということか。

（事務局 医務課 濱崎主事）

優遇されるというわけではないと考えている。

（駿田委員）

先ほどの質問に関連するが、２ページ目に関しては、例えば和歌山県の努力でどうにかできる問題ではないということか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

国に対して粘り強く制度改正を要望していくということと、それに加えて②「地域枠医師数」が年度によって変動するため、変わる要素はあるが、大きく増えるということはないと考えている。

(駿田委員)

和歌山県は医師多数県だと言われればそれまでかもしれないが、人口の少ないところに医師を確保できるようにという意味で条件の変更を国に要望するのは必要だと思う。

もう1点、3ページの1番のところは、今までの実績の数ということか。その平均値をもとに、2番以降でプラスマイナスしていくということか。

(事務局 医務課 濱崎主事)

そのとおり。

(駿田委員)

もう1点、橋本市民病院の個別の事で申し訳ないが、3ページの2番や3番で、「県内残留率が70%以上であれば1加算」や「30%以下なら1減算」とあり、確かに線を引くならこういうところなのだろうが、研修医の分母が少ない病院は毎年ビクビクしている。この辺りを何か考慮できないか。例えば橋本市民病院は4だが、もしマイナス1になってまた次マイナス1になったらもう一気に2まで減ってしまうというように、簡単にドラスティックな変化が起きるので、3ページの1番の実績も含めて、例えばマッチング率なども含めてなど、何かもっと余裕を持たせた条件にできないか。と言いながら、4減らさないといけないものをどう減らすかとなった時に、各病院のせめぎ合いだということはわかるが、クリアカットにしてしまうとどんどん減ってしまうので、分母の低い病院にとっては厳しいということを意見としてお伝えさせていただく。

(平石会長)

事務局においてこの点をご検討いただければと思う。

次の議題に移る。

[議題(2) 令和7年度の医師派遣について]

(事務局 医務課 宮本主査)

令和7年度の医師派遣について報告（【資料2】関係）。

（平石会長）

事務局より、令和7年度の医師派遣について報告があった。

ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いします。

（西村委員）

特例対応について、現在は麻酔科から派遣されているが、今後派遣の医師が増えてくる傾向にあるのであれば、他の診療領域にも広げていただきたい。

（事務局 石田医務課長）

2ページのグラフを見ていただくと、令和7年度の派遣医師数が49名、令和8年度の派遣医師数の見込みが59名で、3ページの令和7年度の要望数が50名とあるが、来年度ベースの要望数であれば派遣医師数が上回ってくる状態になってくる。今は内科で地域派遣しているが、専門の診療科での派遣も含めて和歌山県立医科大学と共に考えていきたいと思う。

（西村委員）

よろしくお願いします。

（橋爪委員）

南和歌山医療センターが3人要望に対して1、済生会有田病院も3人要望に対して1ということで、この2つだけは3割以下になっている。令和5年は2名、令和4年も2名来ていただいていたが、来年は59名になって余ってくる場合、今までの数を守るためにということで、南和歌山医療センターや済生会有田病院が少なかったのは勘案されずにそのまま1になってしまうと大変苦しい。この点に関して充足率の変化というのは勘案されるのか。

（事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長）

令和8年度の派遣医師数59名というのは、内科と特例派遣を含めての数であり特例派遣の医師数も精査した上で最終決定となるので、これまで充足できてなかったから優先的に増やすということにはならない。個別の病院の状況と医師全体の状況を見ながらヒアリングさせていただいて決定していきたいと考えている。

(橋爪委員)

あえて言わせていただくと、南和歌山医療センターは1名では足りない。来年度4月から人数足りず当直宿直が回らないため、私自身が月4回やる。そういう状況になるので、ずっと続くとなるとちょっと自分自身の体力が持たないというところがある。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

令和7年度中に次年度に向けて要望調査をさせていただいて、状況をお伺いしていきたいと考えている。

なお、南和歌山医療センターだと救急の特定診療科派遣の医師がいると思うが、その方に当直の対応をしてもらえないのか。

(橋爪委員)

厳しい状況である。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

引き続き状況を教えていただきながらやっていきたいと思う。

(駿田委員)

派遣医師個人や病院へのヒアリングについて、もう少し前倒しできないか。各医局との関係もあると思うが、今の時期が限界なのか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

今年度は、少しだけ早めに実施した。来年度も早期にできるように努力する。しかし一方で、あまり早めてしまうと、医師に意向調査を行ったときにまだ今の時点で決められないというような意見もあるので、今年度の時期くらいがちょうどいいのではないかと地域医療支援センターと相談して決めた。病院側としてはもうちょっと早い方がいいということか。

(駿田委員)

ヒアリングの時期はいいが、最終決定をもう少し早くできないかということ。

(平石会長)

要望ということでよろしく願います。

他にないので、議事を進行したいと思う。

[議題（３）医学部臨時定員の状況及び令和８年度の国の方針について]

（事務局 医務課 宮本主査）

医学部臨時定員の状況及び令和８年度の国の方針について報告（【資料３】関係）。併せて令和７年度地域枠の入学予定者数について報告（【参考資料１】関係）。

（平石会長）

事務局より、医学部臨時定員の状況及び令和８年度の国の方針について並びに令和７年度地域枠の入学予定者数について報告があった。

ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いする。

（山下委員）

資料を見た感想だが、資料３の６ページと７ページで、これは絶対数ではなくて率で示されている。若い医師が多いか少ないか、高齢の医師が多いか少ないか、それによって全国の一定割合に入ればプラスするという話だと思う。これ見ると和歌山県は中間層が少ないということがわかる。絶対数でいえば和歌山医療圏は多く、和歌山県全体でも多いのでシーリングがかかっている。

また、これを見ると徳島県は大変な状況であることがわかる。高齢の医師が多く、若手医師が少ない。

（事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長）

その点は、徳島県知事が一緒に国に要望に行った際、強く訴えていた。臨時定員の計算において、若い医師が少なく高齢の医師が多いという点を考慮してほしいと要望していたので、そういう地方からの声がある程度反映されたものと考えている。

（山下委員）

和歌山はそもそも若い医師が多いほうだと思う。比率は資料のとおりかもしれないが、若い医師が多い県でもこれだけ医師が少なくて苦しいというのは、そもそもやっぱり計算方法がおかしいのではないかと思う。相対的な話ばかりで絶対数はどうなのかという話が欠落しているという気がする。

（平石会長）

四国４県はなかなか研修医が残らないという状況のようだ。
次の議題に移る。

[議題（４）専門研修に係る令和７年度の採用状況及びシーリングの見直しについて]

（事務局 医務課 宮本主査）

専門研修に係る令和７年度の採用状況及びシーリングの見直しについて報告（【資料４】関係）。

（平石会長）

事務局より、専門研修に係る令和７年度の採用状況及びシーリングの見直しについて報告があった。

ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いします。

（山下委員）

この新しいシーリングの計算については、こういう形で行うということがもう決定されているのか。

（事務局 医務課 宮本主査）

まだ決定ではなく、厚生労働省の案として国の部会に示して概ね了承を得ているが、厚生労働省に確認したところ、今後の部会での議論や、日本専門医機構の検討の中で変わってくる場合もあり得るということである。

（山下委員）

この計算をすると、単純に全国のその診療科の専攻医の数が増えたら、和歌山県も増える可能性があり、おそらく人口は少しずつ減っていくだろうが、率に関してはあまり変わらないので、そういう意味では基本的にはシーリングというのは毎年毎年少しずつ減らされるというのが最初の計画だと思う。それをこの計算をしていただけるとそういう心配があまりないということになる。全国の内科医が増えてくれたら（本県の）シーリング数が増えるかもしれない。

それと地域医療枠と県民枠はもう別ということでこれは確実か。

（事務局 医務課 宮本主査）

最終の正式決定がなされたということではないが、厚生労働省の今の想定では別扱いにするということとなっている。

（山下委員）

了。

（駿田委員）

シーリングの議論と専門医機構の議論は、つながって議論されているのか。専門医の取得率や指導医の説明があったが、例えば内科に入ったが内科の専門医を取れていないとか指導医を取れてないとか、そういうところまで議論されているのか。そろそろ一期生、二期生が専門医を取る時期になってくると思うが、専門医を取っていない医師もいるという情報も時々入ってくる。もちろん個々の事情はあると思うが、専門医取得率などはシーリングの要素に入ってくる可能性があるのか。

（事務局 医務課 宮本主査）

国の議論の中で出ている議事録や資料を見る限りでは、実際に専門医を取れた実績というのは出ていない。あくまでも指導医として派遣している実績を考慮するというものである。

（平石会長）

他にないようなので、次の議題に移る

〔議題（５）医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージ及び先行的な医師偏在是正プランについて〕

（事務局 医務課 宮本主査）

医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージ及び先行的な医師偏在是正プランについて報告（【資料５】関係）。

（平石会長）

事務局より、医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージ及び先行的な医師偏在是正プランについて報告があった。

ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見があれば、順次ご発言をお願いします。

(山下委員)

8ページの補助率の箇所、事業者は自分もお金を出すということだと思うが、このスケジュールだと5月30日までにその事業者が手挙げするというとか。

(事務局 医務課 宮本主査)

そのとおり。

(山下委員)

今はもう3月末なのであと2か月。まだ募集していない状況で、5月30日の締め切りまですごく短い間合のものなのか。

(事務局 医務課 宮本主査)

5月30日の厚生労働省の締め切りに間に合わせる想定でのスケジュールとしてこのような形にさせていただいているが、第1回目の締め切りが5月30日であり、2回目や3回目も実施予定と聞いているので、2回目以降も視野に入れて考えていきたい。

(駿田委員)

可能性があるのは新宮医療圏だけで、他の医療圏の可能性はないのか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

厚生労働省のガイドラインによると新宮医療圏だけになる。

(駿田委員)

新宮市立医療センターの勤務医が開業することになると大変ではないか。新宮医療圏で開業医が増えるのはいいことだと思うが、その辺りを危惧する。手挙げをすれば採用されるのか。

(事務局 医務課 庄司医療戦略推進班長)

新宮医療圏ではどの診療科も偏りなく不足していると思うが、何らかの要件をつける必要はあると考えている。例えば、保険診療を行う場合に限るなど、県で案を考えて、本協議会でも議論いただき、決定したいと考えている。

ただ、新宮市立医療センターの勤務医が開業となった場合に、これを排除するのは難しいのではないかと考えている。

(雑賀委員)

例えば「病院勤務医を除く」なども一つの考え方だと思う。

(平石会長)

要件については、今後開催される本協議会と保険者協議会において議論されることだと思う。

我々開業医は高齢化しており、次の世代を担っていただく開業医に頑張ってもらいたいので、今後議論していきたい。

最後の議題に移る。

[議題（６）その他]

(平石会長)

議題６、その他について、事務局より和歌山県立医科大学地域医療支援センターの活動について報告があると伺っている。それでは、事務局より報告をお願いします。

(事務局 医務課 宮本主査)

和歌山県立医科大学地域医療支援センター活動報告について説明（【参考資料２】関係）。

(平石会長)

事務局より、和歌山県立医科大学地域医療支援センター活動報告について報告があった。ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見があれば発言をお願いします。

(平石会長)

黒潮医療人養成プロジェクト関係事業はどうだったのか。

(中尾委員)

県と地域医療支援センターのスタッフのご尽力で本当に良い会ができたと思っている。南海トラフでかなり被害が想定されるがそれも踏まえていろいろなプロジェクトを進められた。知事や素晴らしい演者にも来ていただいた。ありがとうございました。

(平石会長)
他にないか。

<特になし>

(平石会長)
本日予定していた議事は以上である。

以上